

岩手県感染症週報

令和7年第17週 (4月21日～4月27日)

岩手県感染症情報センター

第17週の概要

1類感染症

- 患者発生の報告はありませんでした。

2類感染症

- 結核の報告が2例ありました。

3類感染症

- 患者発生の報告はありませんでした。

4類感染症

- 患者発生の報告はありませんでした。

5類感染症 (全数把握対象疾患)

- 百日咳の報告が47例ありました。今年に入ってから県の報告数は189例であり、昨年一年間の報告数(14例)を上回っています。全国でも患者数が増加しており、乳児の死亡事例も発生しています。かぜ様の症状と激しい咳が特徴で、1歳未満の乳児は重症化のリスクがあります。乳児への感染を避けるため、周囲の人は体調管理に気を付け、症状がある場合はすみやかに受診してください。予防にはマスクの着用や手洗いのほか、ワクチン接種が有効です。
- 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が2例ありました。
- 梅毒の報告が1例ありました。
- 国内で麻しんが報告されています。海外渡航歴のある人だけでなく、渡航歴のない人も報告されており、輸入事例の増加が懸念されています。麻しんは空気感染し、人から人へ容易に感染します。手洗いやマスクのみでは予防できないため、ワクチン接種が有効です。また、渡航予定のある人は渡航先の流行状況も確認してください。

5類感染症 (定点把握対象疾患)

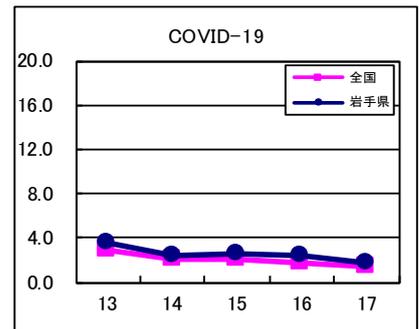
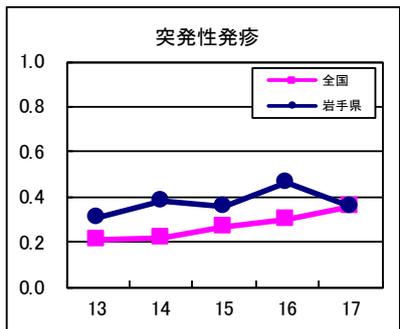
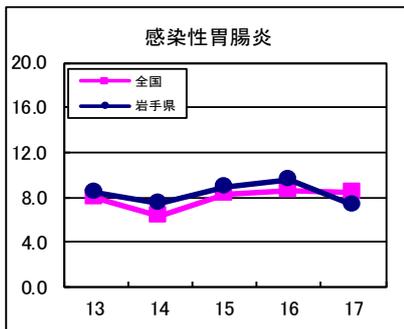
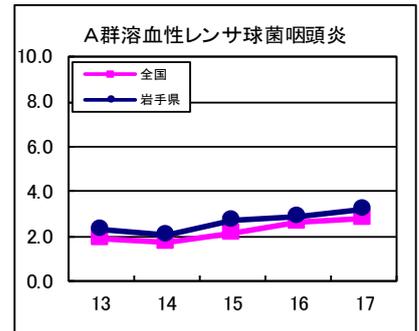
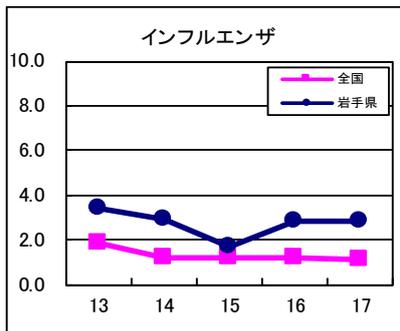
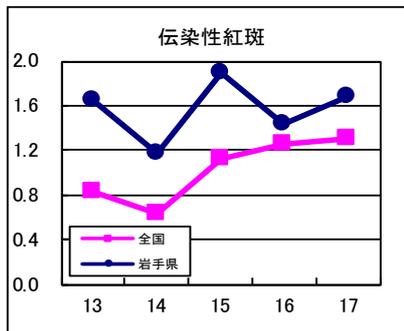
- 感染性胃腸炎は減少し、定点当たり患者数は7.39人でした。盛岡市、奥州、中部地区で報告が多くなっています。集団発生事例は教育・保育施設で5件あり、このうち4件でノロウイルスが検出されています。ノロウイルス等の胃腸炎ウイルスはアルコール消毒が効きにくく、患者の吐物や便の処理には塩素系消毒剤が有効です。その際は、換気も忘れずに行ってください。また、体調管理に気を付け、調理や食事の前、トイレの後は石けんで手洗いをしましょう。
- インフルエンザは前週から変わらず、定点当たり患者数は2.84人でした。学校等休業措置は6件ありました。引き続き、手洗いや咳エチケットなど基本的な感染予防対策をしてください。症状がある場合はマスクを着用のうえ受診をしてください。

「岩手県・新型コロナ対策
パーソナルサポート
(@iwatevscovid19)
ID検索またはQRコードか
ら友達追加



最近の注目疾患 (定点あたり患者数の過去5週の動き)

(疾患によって目盛りのスケールが異なることに注意)



定点把握対象疾患（過去5週の動き）

報告週対応表 <https://id-info.iibs.go.jp/surveillance/idwr/calendar/2025/index.html>

※2025年4月7日より急性呼吸器感染症（ARI）が定点把握対象疾患となりました。

※2023年第19週より新型コロナウイルス感染症が定点把握対象疾患となりました。

※2018年1月1日より百日咳が5類感染症（定点把握疾患）から5類感染症（全数把握疾患）へ変更されました。

（定点あたり患者数）

疾病名	地域	週					流行傾向	
		13	14	15	16	17		
インフルエンザ	岩手県	3.39	2.87	1.64	2.84	2.84	→	☆
	全国	1.85	1.20	1.19	1.20	1.09		
RSウイルス感染症	岩手県	0.54	0.69	0.75	0.71	0.39	↘	☆☆
	全国	1.02	0.80	0.93	0.85	0.72		
咽頭結膜熱	岩手県	0.46	0.38	0.61	0.96	0.96	→	☆☆
	全国	0.23	0.25	0.25	0.32	0.39		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	2.33	2.10	2.75	2.86	3.18	↗	☆
	全国	1.89	1.71	2.12	2.64	2.83		
感染性胃腸炎	岩手県	8.38	7.54	8.89	9.64	7.39	↘	☆
	全国	7.95	6.41	8.26	8.54	8.39		
水痘	岩手県	0.13	0.31	0.11	0.50	0.07	↘	
	全国	0.30	0.27	0.33	0.37	0.48		
手足口病	岩手県	0.03	0.03	0.07	0.07	0.00	↘	
	全国	0.05	0.04	0.05	0.07	0.10		
伝染性紅斑	岩手県	1.64	1.18	1.89	1.43	1.68	↗	☆☆☆
	全国	0.82	0.63	1.13	1.25	1.30		
突発性発疹	岩手県	0.31	0.38	0.36	0.46	0.36	↘	☆
	全国	0.21	0.22	0.27	0.30	0.36		
ヘルパンギーナ	岩手県	0.00	0.03	0.04	0.04	0.00	↘	
	全国	0.01	0.01	0.02	0.02	0.03		
流行性耳下腺炎	岩手県	0.00	0.05	0.04	0.00	0.04	↗	
	全国	0.04	0.03	0.05	0.06	0.09		
急性出血性結膜炎	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	0.06	0.05	0.06	0.06	0.04		
流行性角結膜炎	岩手県	0.57	0.43	0.29	0.07	0.21	↗	☆
	全国	0.80	0.77	0.81	0.95	0.91		
新型コロナウイルス感染症	岩手県	3.48	2.45	2.50	2.36	1.75	↘	☆
	全国	2.92	2.14	2.10	1.77	1.39		
細菌性髄膜炎	岩手県	0.21	0.05	0.05	0.00	0.00	→	
	全国	0.03	0.02	0.02	0.01	0.01		
無菌性髄膜炎	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.05	0.05	→	
	全国	0.03	0.01	0.02	0.02	0.04		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.11	0.16	0.11	0.11	0.11	→	☆
	全国	0.28	0.22	0.24	0.30	0.28		
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00		
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	岩手県	0.05	0.05	0.00	0.05	0.00	↘	
	全国	0.23	0.18	0.24	0.24	0.18		
インフルエンザ（入院患者） ※報告数であることに注意	岩手県	3	3	2	2	1		
	全国	125	118	92	96	89		
急性呼吸器感染症（ARI）	岩手県			86.93	94.09	95.86	↗	
	全国			49.38	56.58	62.18		

【流行傾向の見方】

- 無印：ほとんど患者が発生していません
- ☆：患者が発生しています
- ☆☆：警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆：多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

(患者発生数)

分類	疾病名	(週)	岩手県					全国	
		13	14	15	16	17	累計	17	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核 () 内は潜在性結核感染症患者再掲	0 (0)	0 (0)	2 (1)	1 (0)	2 (0)	25 (9)	225	4160
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	中東呼吸器症候群 (MERS)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	3
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	1	2	16
	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	2	1	0	9	32	419
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	7
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	2
四類 感染症	E型肝炎	0	0	0	0	0	1	10	178
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	0	2	47
	エキノкокクス症	0	0	0	0	0	0	1	9
	エムボックス	0	0	0	0	0	0	0	1
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	3
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	2
	キャサヌル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	1
	ジカウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	4	9
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	5
	つつが虫病	0	0	0	0	0	0	1	42
	デング熱	0	0	0	0	0	0	0	49
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	3	11
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	0
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
	ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	1
	マラリア	0	0	0	0	0	0	0	6
野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0	
ライム病	0	0	0	0	0	0	0	0	
リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0	
レジオネラ症	0	1	1	0	0	7	23	525	
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	1	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

全数把握対象疾患（続き）（過去5週の動き）

（患者発生数）

分類	疾病名	岩手県					全国		
		(週) 13	14	15	16	17	累計	17	累計
五類感染症	アメーバ赤痢	0	0	0	0	0	0	9	149
	ウイルス性肝炎（A型肝炎及びE型肝炎を除く）	0	0	0	0	0	1	5	68
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	0	0	0	0	0	4	10	542
	急性弛緩性麻痺	0	0	0	0	0	0	0	9
	急性脳炎（ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く）	0	0	0	0	0	0	5	218
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	7
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	3	53
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	1	0	7	22	543
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	0	8	244
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	1	11
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	0	10	266
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	2	27
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	0	0	0	2	4	77	1583
	水痘（入院例）	0	0	0	0	0	2	12	178
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	0	0	1	1	1	9	157	4279
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	3	49
	破傷風	0	0	0	0	0	0	1	24
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	1	32
百日咳	8	17	20	52	47	189	2176	11921	
風しん	0	0	0	0	0	0	0	5	
麻しん	0	0	0	0	0	0	11	96	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	4	

今注目の感染症

百日咳

百日咳は主に百日咳菌（*Bordetella pertussis*）を原因とし、けいれん性の咳発作を特徴とする、感染力が強い急性気道感染症です。乳児（特に新生児や乳児早期）では重症化することもあります。感染症法に基づく感染症発生動向調査では、2018年1月1日以降、5類全数把握疾患に定められています。

百日咳の感染経路は鼻咽腔や気道からの分泌物による飛沫感染と接触感染であり、感染力が強いことが知られています。潜伏期間は通常7～10日程度で、風邪症状で始まり咳が激しくなるカタル期、特徴的な咳や呼吸音がみられる痙咳期を経て回復期に至ります。乳児では痙咳期に重症化することがあり、肺炎や脳症などの合併症を併発し、まれに死亡することがあります。成人の百日咳では咳が長期にわたって持続しますが、典型的な発作性の咳を示すことは少ないとされています。

百日咳は、新型コロナウイルス感染症の流行による呼吸器感染症に対する感染対策の強化に伴い、2020年以降届出数が大きく減少し、2024年から再び増加しています。また、第一選択薬として用いられるマクロライド系抗菌薬に対する耐性株の報告が2008年頃から東アジアで増加しており、2024年には国内でも報告がみられています。

岩手県では2025年に入って報告数が増加しています。2025年第1週から第17週までの報告数は速報値（※）で189例であり、昨年一年間の報告数（14例）をすでに上回っており、2018年以降で2025年が過去最大の報告数となる見込みです（図1及び図2）。

（※）データは報告数集計の速報値として公開するものであり、後日感染症発生動向調査週報、さらには確定データとしての年報において修正される場合があります。

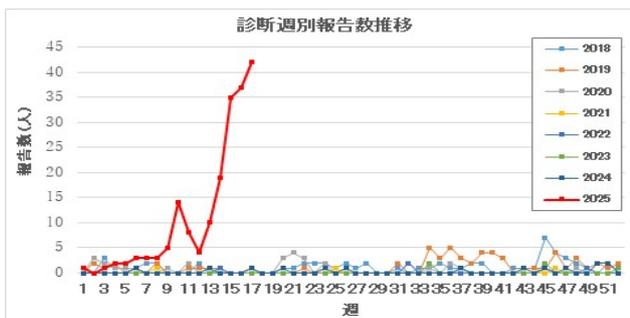


図1 岩手県の百日咳の診断週別報告数推移 (2018年～2025年第17週)

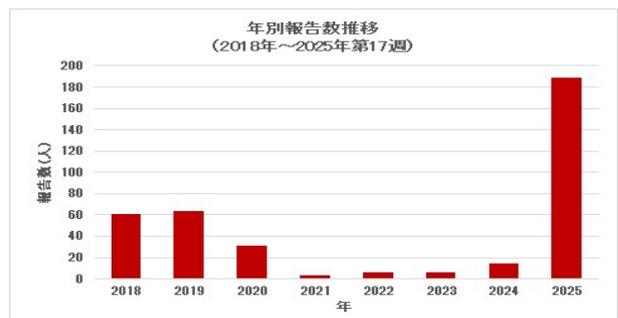


図2 岩手県の百日咳の年別報告数推移 (2018年～2025年第17週)

※診断週別報告数と速報値は、必ずしも一致するものではありません。

百日咳（続き）

地域別でみると、今年の累計で最も多いのが盛岡市並びに県央でいずれも51例報告されており、次いで久慈（31例）、二戸（27例）となっています（表1）。年齢階層別でみると、最も多いのが10代で106例で全体の半数以上を占めています（表2）。

百日咳の対策については、特に重症化予防の観点から、定期接種の対象年齢（月齢）に達した乳児はすみやかに百日咳抗原含有ワクチンの接種を受けることが最も重要です。また、地域で百日咳が流行している状況下では、特に乳児や妊婦が周辺にいる、成人を含む小中高生より上の年代において、長期の咳が持続する場合は、百日咳の可能性を念頭においた医療機関の受診や予防行動をとってください。

表1 岩手県における百日咳の地域別報告数

地域別	盛岡市	県央	中部	奥州	一関	大船渡	釜石	宮古	久慈	二戸	計
2025年17週	21	6	2	0	1	0	2	1	14	0	47
1～17週累計	51	51	20	1	5	0	2	1	31	27	189

表2 岩手県における百日咳の年齢階層別報告数

年齢階層別	0歳	1～4歳	5～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
2025年17週	0	1	7	25	1	2	8	2	0	1	47
1～17週累計	2	9	25	106	3	10	22	8	2	2	189

【参考】

百日咳（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/whooping_cough.html

百日咳（国立健康危機管理研究機構）

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ha/pertussis/010/pertussis.html>

今注目の感染症

伝染性紅斑

伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルスB19により小児を中心に見られる流行性の発疹性疾患です。典型例では両頬に境界明瞭な紅斑が出現することが特徴的で、リンゴ病と呼ばれることもあります。四肢にも網目状、レース様の発疹が見られます。

感染経路は飛沫感染、接触感染です。潜伏期間は10日から20日と言われており、感染後1週間頃にウイルス血症を起こし、インフルエンザ様症状を呈することがあります。この時期にウイルスが排出され、発疹が出現する時期には抗体が産生されてウイルスは排出されないとされています。

成人が感染した場合では関節痛が見られることがあり、長引くことがあるほか、妊婦が感染すると胎児に感染して流産、死産を起こすことがあります。なお、感染が確認された新生児でも発育が正常であることが多いようですし、先天異常も確認されていない模様です。

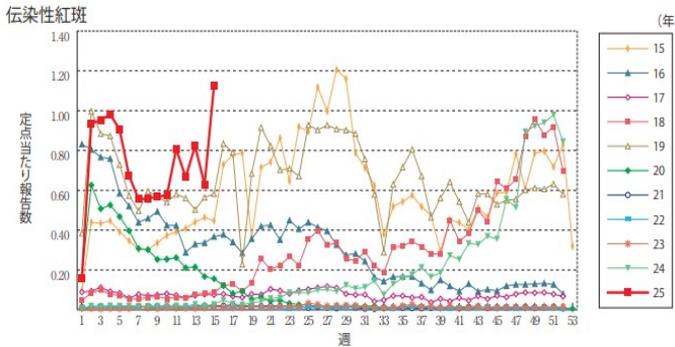


図1 全国の伝染性紅斑の発生状況（2015年～2025年第15週）
（国立健康危機管理研究機構HPより）

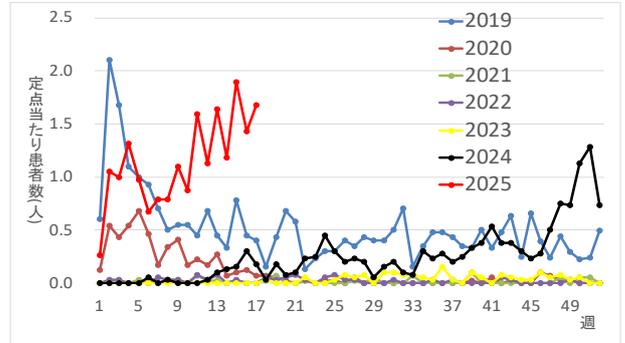


図2 岩手県の伝染性紅斑の発生状況
（2019年～2025年第17週）

全国の発生状況は図1のとおりです。岩手県の発生状況は、2024年の第48週頃から増加が見られ、2019年以來の流行となっています（図2）。今週の県内各保健所管内ごとの定点当たり患者数は図3のとおりです。

ウイルスが排出される時期に感染していることがわからないことと、アルコール消毒が効きにくいことから、対策は容易ではありません。

- (1) 日頃から石けんと流水による手洗いの励行
- (2) 咳エチケット
- (3) 塩素系消毒剤によるドアノブやおもちゃの消毒
- (4) 食器等の共用を避ける
- (5) 妊婦では日頃から予防対策を徹底すること

【参考】

伝染性紅斑（ヒトパルボウイルスB19感染症）（国立健康危機管理研究機構）

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ta/5th-disease/010/5th-disease.html>

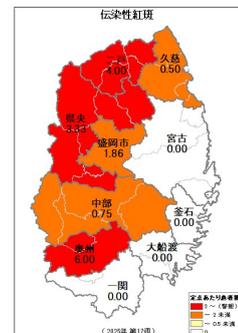


図3 第17週の保健所管内別の状況

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報（行政区域データ）」をもとに岩手県が編集・加工した。
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図（国土基本情報）電子国土基本図（地図情報）を使用した。（承認番号 平29情使、第675号）

今注目の感染症

感染性胃腸炎

感染性胃腸炎は、細菌やウイルスなどの微生物を原因とする胃腸炎の総称です。毎年秋から冬にかけて流行し、その原因はノロウイルスやサポウイルスなどのウイルスが大部分を占めています。感染性胃腸炎の原因ウイルスは、手指や食品などを介して経口感染し、嘔吐、下痢、腹痛などを引き起こします。健康な人は軽症で回復しますが、子どもや高齢者は重症化したり、吐物を誤って気道に詰まらせて死亡することがあります。

全国の感染性胃腸炎の報告数は、例年11月から増加し12月と1月から2月頃にピークを迎えます（図1）。

一方、県内の感染性胃腸炎の報告数は、2024年では全国と同様の流行形態をとっており、第5週にピークを迎えました（図1及び2）。2025年は第11週にピーク（13.26人）となりました。今週の県内各保健所管内ごとの定点あたり患者数は図3のとおりです。

県内の集団感染事例は、2025年4月から2025年第17週までに12例報告されました。内訳はノロウイルスが9例、サポウイルスが1例、ノロウイルスやサポウイルス等が1例、その他が1例でした。

感染性胃腸炎

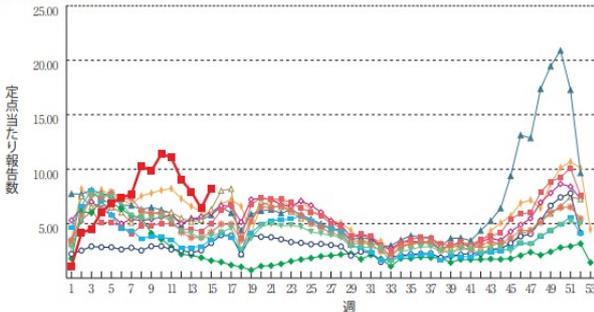


図1 全国の感染性胃腸炎の発生状況（2015年～2025年第15週）
（国立健康危機管理研究機構HPより）

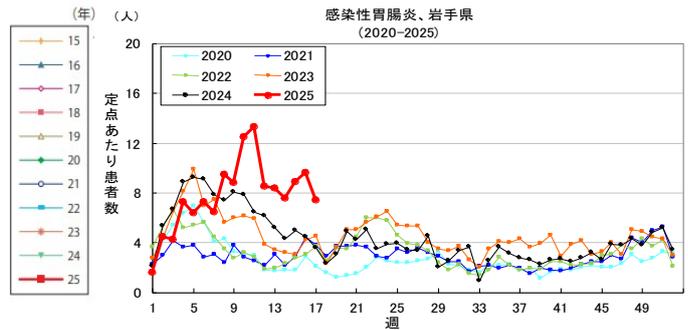


図2 岩手県の感染性胃腸炎の発生状況
（2020年～2025年第17週）

感染性胃腸炎の主な原因となるウイルスは感染力が非常に強く、少量のウイルスでも感染する特徴があります。学校や教育保育施設、老人福祉施設などの集団生活を営む施設では、感染予防対策の再確認が勧められます。

ウイルス性胃腸炎の予防方法は以下のとおりです。

- (1) トイレの後、調理前、食事前には石けんと流水で十分な手洗いを行う。
- (2) 調理する場合、加熱が必要な食品は85～90℃・90秒以上で十分加熱する。
- (3) 嘔吐した場合は、部屋の換気を十分に行いながら、マスクや使い捨て手袋を用いて片付け、嘔吐した場所や使用した器具を塩素系消毒剤で消毒する。
- (4) 嘔吐、下痢等の症状がある場合には、早めに受診する。

【参考】

感染性胃腸炎（国立健康危機管理研究機構）

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ka/intestinal/010/intestinal-intro.html>

ノロウイルスに関するQ&A（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html

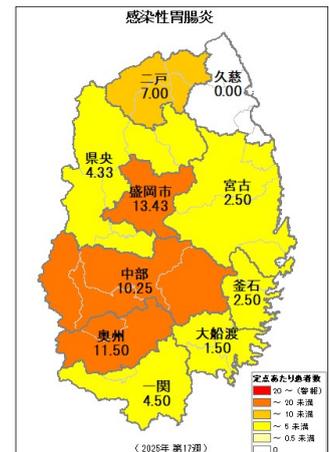


図3 第17週の保健所管内別の状況

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報（行政区域データ）」をもとに岩手県が編集・加工した。
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図（国土基本情報）電子国土基本図（地図情報）を使用した。（承認番号 平29情使、第075号）

今注目の感染症

急性呼吸器感染症（ARI）

急性呼吸器感染症（Acute Respiratory Infection：ARI）とは、急性の上気道炎（鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎）又は下気道炎（気管支炎、細気管支炎、肺炎）を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

令和7年4月7日から急性呼吸器感染症が感染症法上の5類感染症に位置付けられ、定点サーベイランスの対象となりました。これにより、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザのような流行しやすい急性呼吸器感染症の流行の動向を把握することができ、また、仮に未知の呼吸器感染症が発生し始めた場合に迅速に探知することが可能となります。

急性呼吸器感染症に対する予防方法として、基本的な感染症対策である換気や手洗い・手指消毒、マスクの着用を含めた咳エチケットなどの実施が有効です。

なお、県内の急性呼吸器感染症の発生状況（速報）については、岩手県感染症情報センターのホームページをご覧ください。

【参考】急性呼吸器感染症（ARI）（厚生労働省）

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/ari.html>

今注目の感染症

新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、コロナウイルス科ベータコロナウイルス属の新型コロナウイルスによる急性呼吸器症候群です。

2023年第19週（5月8日～14日）から全数把握対象疾患ではなく、五類感染症の定点把握対象疾患となり、県内の発生動向は定点医療機関からの患者数の報告に基づいて公表しています。

2023年第19週以降の国内と県内の定点当たり患者数は図1のとおり、2024年10月から2025年3月までに県内で検出された新型コロナウイルス変異株の解析結果は図2のとおり、2025年第17週の県内保健所管内ごとの定点当たり患者数は図3のとおりです。国内で流行している変異株XECが県内でも確認されています。

高齢者や基礎疾患のある方は重症化のリスクがあるので特に注意が必要です。予防には、咳エチケットや手洗い、換気等普段からの感染症予防対策に努めていただくとともに、「3つの密」（換気の悪い密閉空間、人が多数集まる密集場所、間近で会話や発声をする密接場面）を避けるようにしましょう。

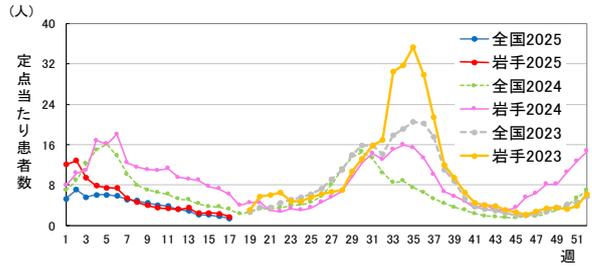


図1 全国及び岩手県の状況(2023年第19週～)

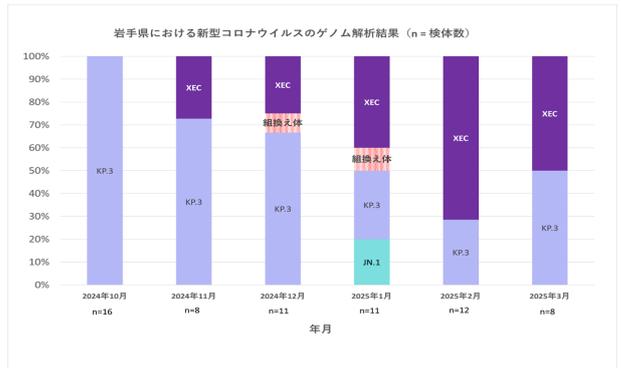


図2 岩手県における新型コロナウイルスゲノム解析結果(2024年10月～2025年3月)

<<岩手県の電話相談窓口>>

県民医療相談センター 受付時間 平日9時から16時
 TEL：019-629-9620 FAX：019-626-0837
 いわて発熱等相談センター 受付時間 平日夜間16時から翌朝9時
 及び休日、年末年始
 TEL：0570-059-333 FAX：050-3816-3649

「かかりつけ医」がない場合、ご相談ください。

- ① 発熱等の症状がある場合の健康相談や受診先の相談。
- ② ワクチンの効果や体への影響、接種後の副反応についての相談。

岩手県の受診・相談（新型コロナウイルス感染症）のホームページはこちら
<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/iryuu/covid19/1052939.html>

また、新型コロナウイルス感染症の最新情報については、厚生労働省及び国立感染症研究所のホームページで随時更新されています。ご確認をお願いします。

◆参考

- 新型コロナウイルス感染症について－厚生労働省－
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html
 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）関連情報－国立健康危機管理研究機構－
<https://id-info.ijhs.go.jp/diseases/ka/coronavirus/index.html>
 岩手県の新型コロナウイルス感染症関連情報
<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/iryuu/covid19/index.html>

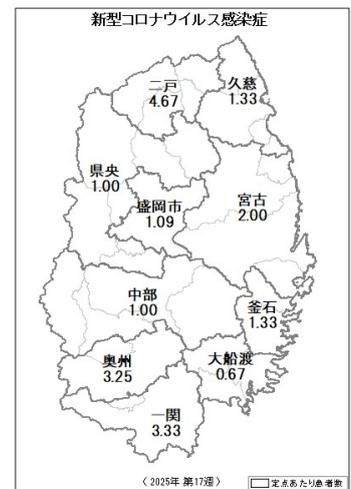


図3 第17週の保健所管内別の状況

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報（行政区域データ）」をもとに岩手県が編集・加工した。
 ※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)を使用した。(承認番号 平29情使、第675号)

集団感染情報

○新型コロナウイルス感染症によるクラスター発生について

- ・岩手県 2件
- ・盛岡市 0件



○感染性胃腸炎の集団発生について

- ・盛岡市保健所管内の教育・保育施設（令和7年4月21日公表）
令和7年4月4日（金）から、有症者20名（下痢・嘔吐等）、その他のウイルスによる。
- ・盛岡市保健所管内の教育・保育施設（令和7年4月21日公表）
令和7年4月7日（月）から、有症者15名（下痢・嘔吐等）、ノロウイルスを検出。
- ・盛岡市保健所管内の教育・保育施設（令和7年4月21日公表）
令和7年4月1日（火）から、有症者27名（下痢・嘔吐等）、ノロウイルスやサポウイルス等を検出。
- ・県央保健所管内の教育・保育施設（令和7年4月22日公表）
令和7年4月4日（金）から、有症者14名（下痢・嘔吐等）、ノロウイルスを検出。
- ・県央保健所管内の教育・保育施設（令和7年4月25日公表）
令和7年4月17日（木）から、有症者15名（下痢・嘔吐等）、ノロウイルスを検出。

○インフルエンザによる学校等休業措置について（第17週公表分）

- ・岩手県 4件
- ・盛岡市 2件

病原体検出情報

- ・急性呼吸器感染症患者の咽頭ぬぐい液3検体からライノウイルスCを2件、ヒトメタニューモウイルスを1件検出しました。
- ・上気道炎患者の咽頭ぬぐい液3検体からライノウイルスAを1件、ライノウイルスCを2件、パラインフルエンザウイルス3型を2件検出しました。（1検体から2種類の病原体を検出した重感染を含む。）
- ・気管支炎患者の咽頭ぬぐい液3検体からRSウイルスB型を1件、ライノウイルスAを1件、ヒトコロナウイルスHKU1を1件検出しました。
- ・急性咽頭炎患者の咽頭ぬぐい液1検体からヒトメタニューモウイルスを検出しました。
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者の咽頭ぬぐい液からA群溶血性レンサ球菌を分離しました。

医療機関からの情報

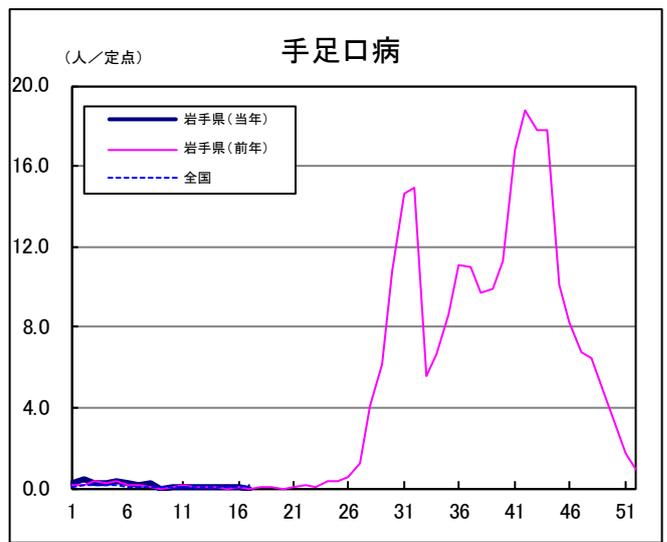
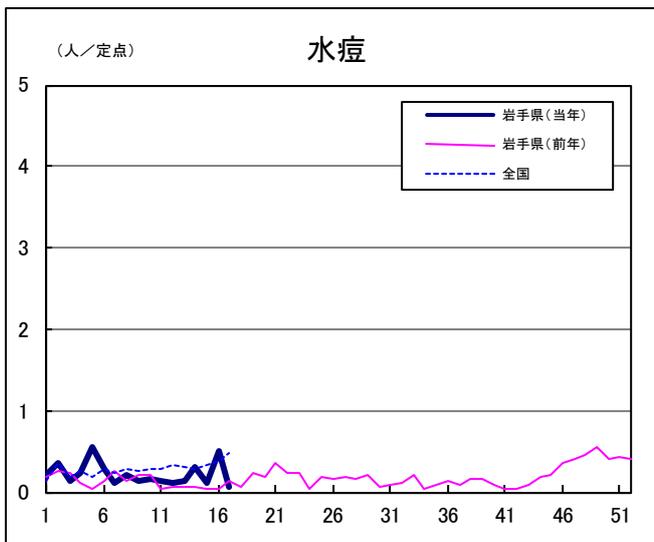
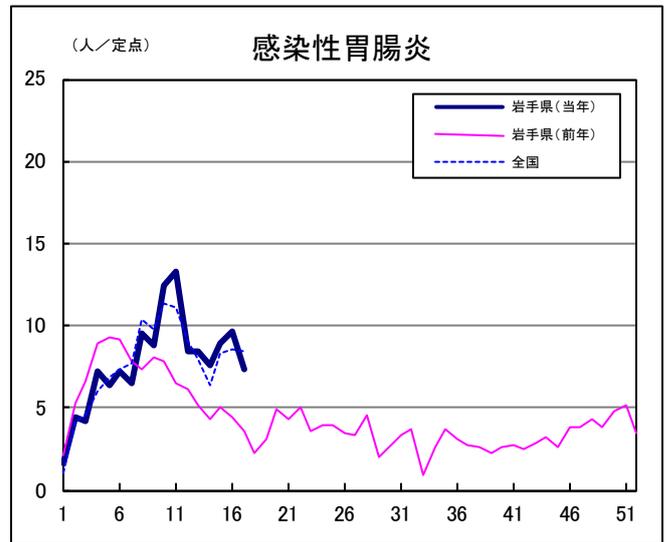
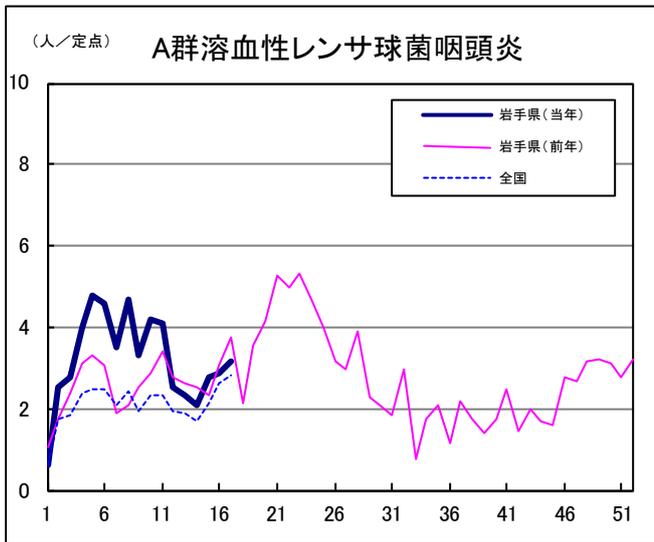
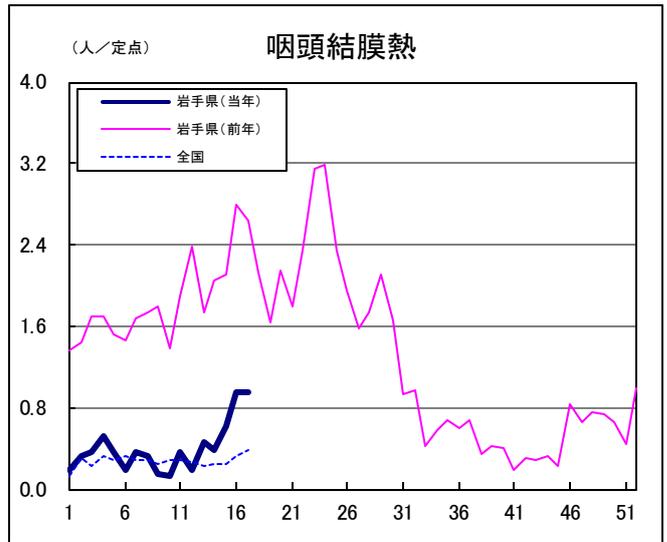
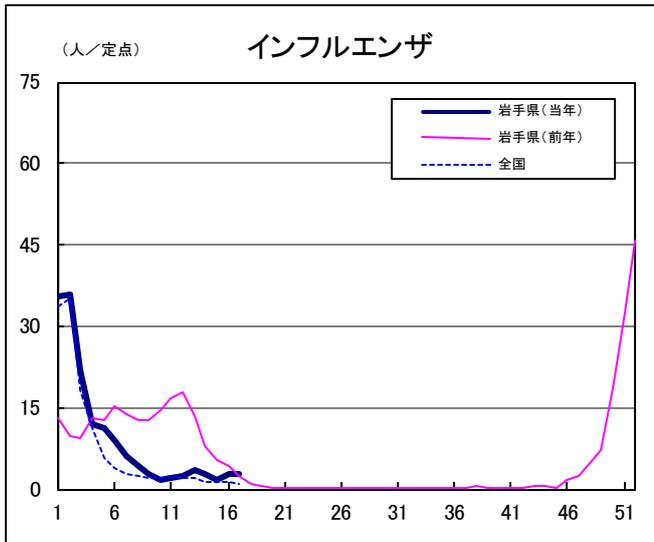
- ・この週には医療機関からの情報はありません。

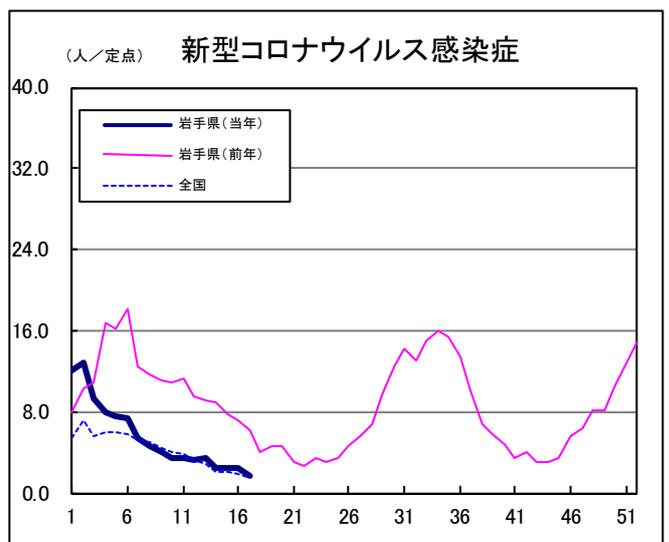
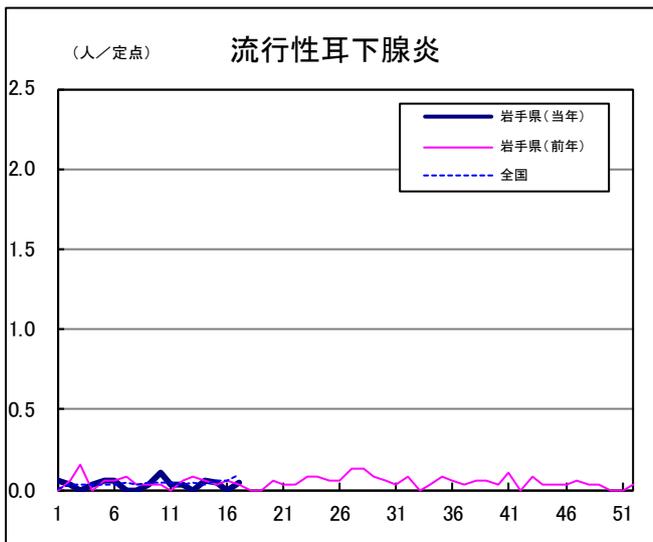
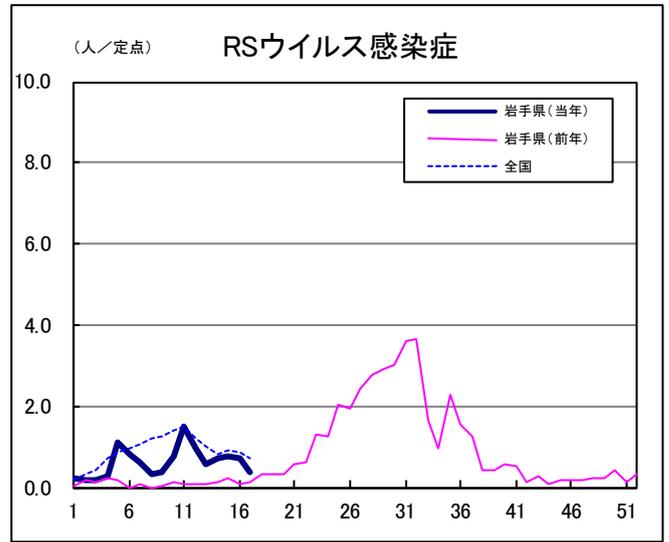
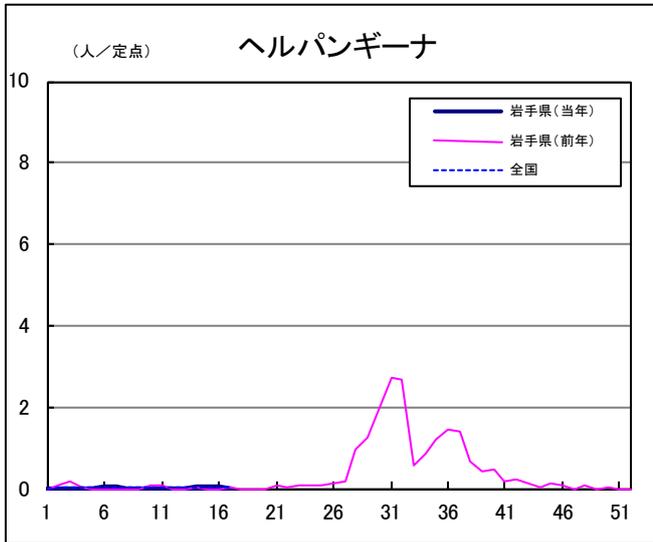
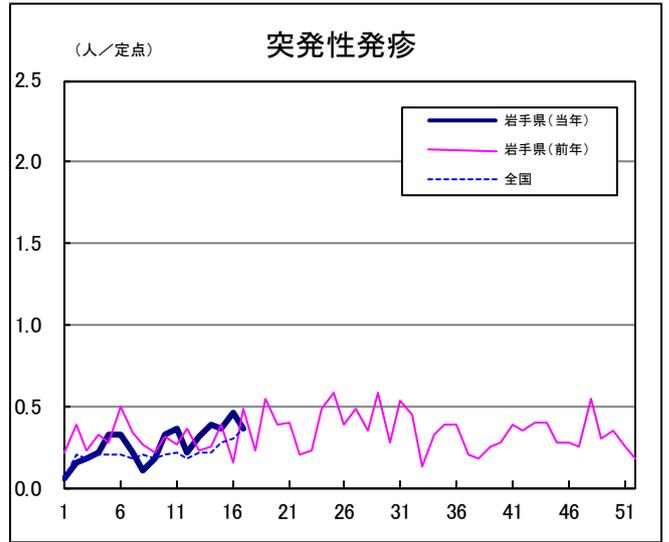
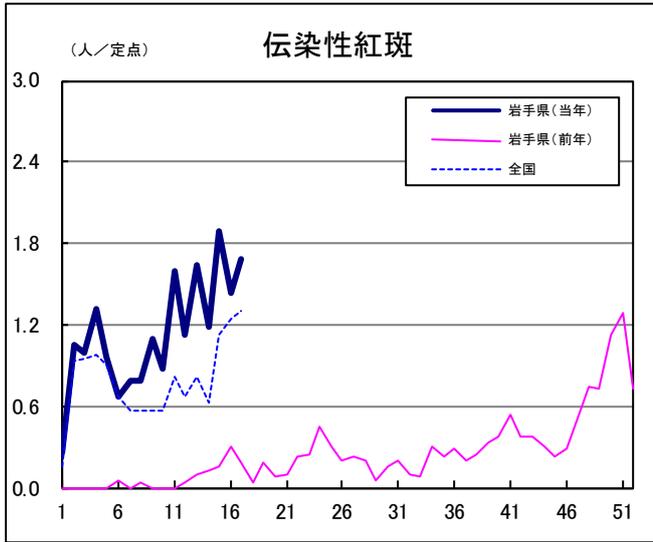
Q & A

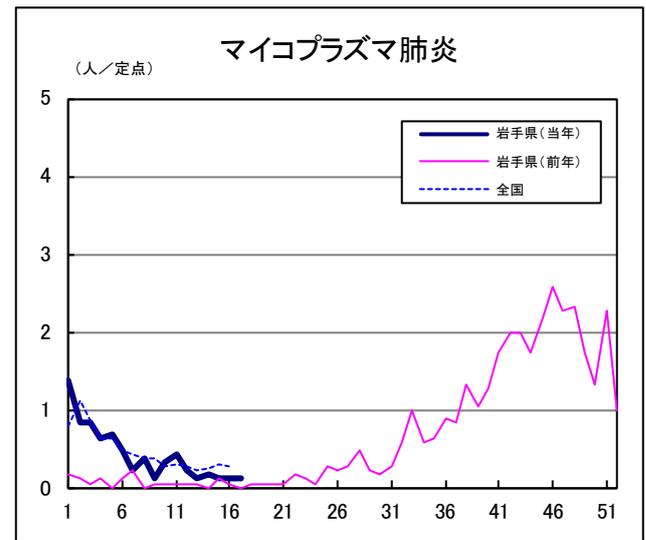
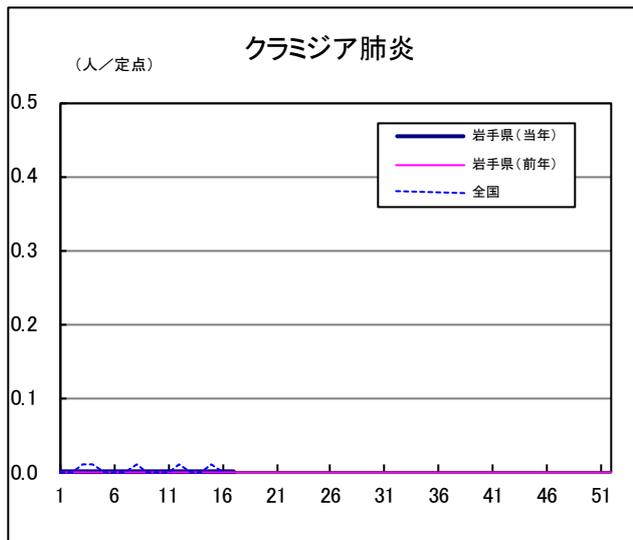
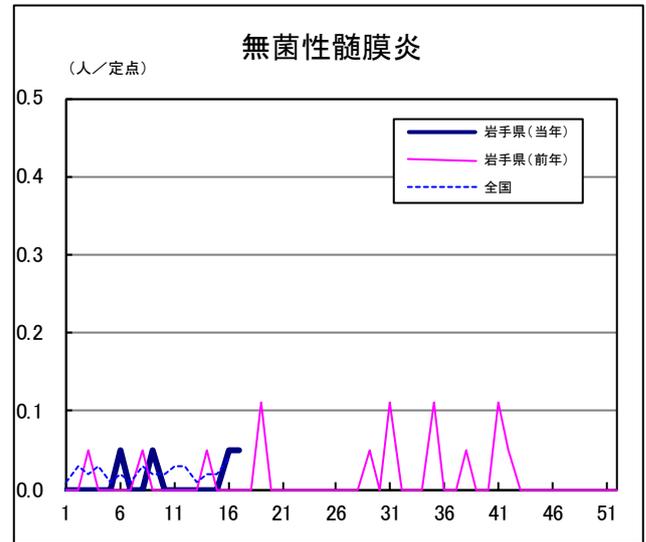
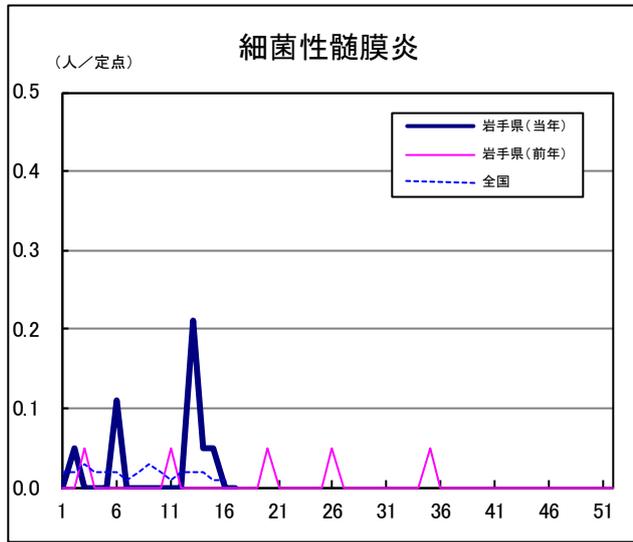
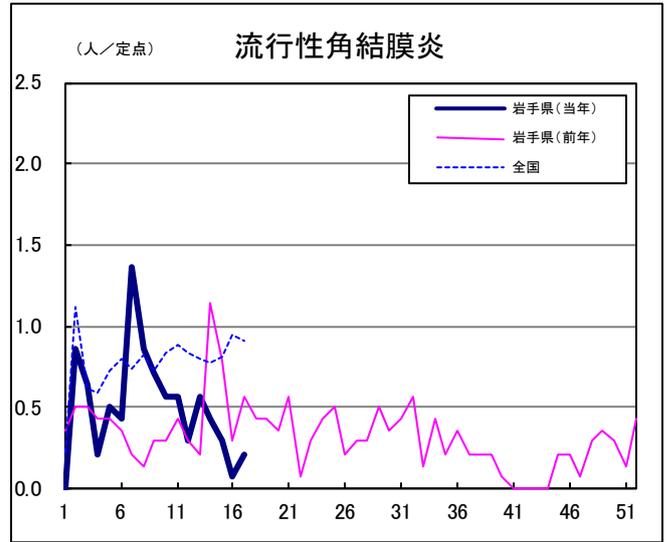
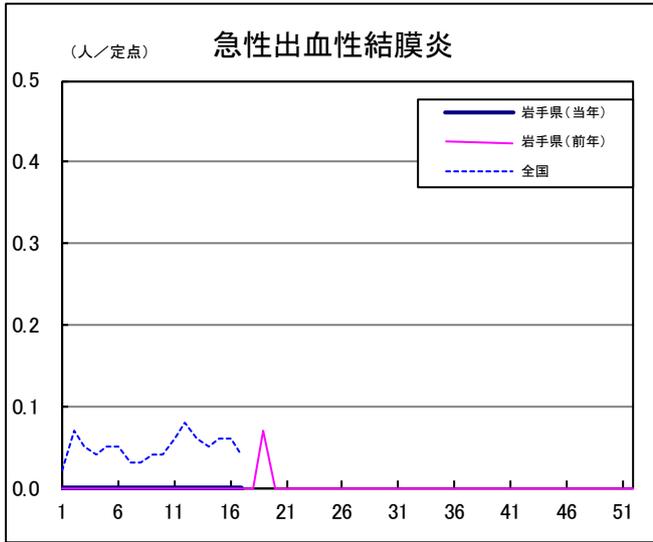
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。
岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667
E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)







定点医療機関の数

地区	定点種別	ARI定点	小児科 定点	眼科定点	基幹定点
岩手県		44	28	14	19
盛岡市		11	7	3	4
県央		4	3	2	1
中部		6	4	2	4
奥州		4	2	1	2
一関		3	2	1	2
大船渡		3	2	1	1
釜石		3	2	1	1
宮古		4	2	1	1
久慈		3	2	1	1
二戸		3	2	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<https://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 令和7年第17週 令和7年5月2日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査協議会

発行：岩手県環境保健研究センター
岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター
(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <https://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<https://www.pref.iwate.jp/soshiki/hofuku/1016013.html>

<岩手県保健福祉部医療政策室>